自主・創造・根気

第２８号
２０１９．３．１２
三田市立狭間中学校

次年度の準備を今から･･･

３年生が卒業すると、活気のあった校内も少し寂しく感じられます。

すでに、２年生の皆さんは最上級生として、１年生の皆さんは先輩として、新入生を迎える心構えを持ち始めていると思います。狭間中生には「困った人を助けられる」「間違ったことに注意ができる」「声をかけ合い協力できる」「トイレのサンダルの乱れを直せる」など、自ら考えて行動できる人が多くいます。その校風を大切にして、4月に入学してくる新１年生の模範になってほしいと思います。

次の文章は、今年度の卒業証書授与式の式辞（一部抜粋）です。卒業生へのはなむけの言葉として送ったものですが、在校生の皆さんへのメッセージでもあります。

中学校生活においても大切なことですので、参考にしてほしいと思います。

今、現在の子供の五十パーセントは、百歳以上生きると言われる「人生百年時代」を迎え「超スマート社会」の実現に向けて人工知能やビッグデータなどの技術革新も加速度的に進んでいます。

世界がめまぐるしく変化し続ける予測困難な時代に生きる皆さんには、生涯学び続けることが求められています。しかし、それは言い換えれば、いつでも学び直しのできる社会でもあります。十五才で人生が決まったりはしません。これからの長い人生、やり直しの機会は何度でもあります。いくらでも自分を変え高めることはできるのです。そんな未来に生きる皆さんに二つのお話をして、はなむけにしたいと思います。

一つは「自分自身を低く評価しない」ということです。かつて、陸上競技の世界では百メートル十秒の壁がありました。水泳競技では百メートル一分の壁がありました。人間には決して超えることができないと言われていた壁は、いずれも一人の人間によって破られます。そのとたん、次々と記録の更新が始まるのです。人はそれぞれ信じられないような能力を持っています。大切なのはその能力を自らが低く評価して心に壁をつくらないことです。皆さんが自分の可能性を信じて持てる力を出し切った時、思いもよらない自分の能力に気付くことでしょう。

もう一つは「常にチャンスをつかむ準備をする」ということです。成功した人の足跡を見ると、大抵その過程で大きな転機とチャンスをつかんでいることがわかります。どうすればチャンスをつかむことができるのか、答えは、常にチャンスをつかむ努力をし続けるということです。

耕した畑に種を蒔いても、その種は確実に実を結ぶとは限りません。鳥が来て種を食べてしまうかもしれません。芽を出しても根をはれずに枯れてしまうこともあります。しかし、中には良い土の中に落ち、やがて何倍も何十倍にも成長するものが出てくるのです。

チャンスとは、自分ではコントロールできない偶然によるものではなく、努力によって誰にでも手に入れることができるものなのです。チャンスは至る所にあります。しかし、それが実を結ぶのは努力して常によい土を用意していた人のもとだけにやってくるということです。

《 卒業生に送ったメッセージ 》

人には、それぞれに違った生き方があります。

雑草のように生きる生き方もその一つです。「踏まれても踏まれても立ち上がれ」などと言うつもりはありません。

何故なら、踏まれるところに生えている雑草は、立ち上がろうとはせず、踏まれてもダメージが小さいように、みんな地面に横たわるようにして生えているからです。雑草にとってもっとも重要なことは、踏まれても立ち上がることではなく、花を咲かせて種子を残すことなのです。

自然界では弱い立場と言われる雑草は、競争相手の少ない踏まれやすい場所をあえて定め、踏まれてもダメージを受けないような形で成長し、更に踏んだ人の靴底に種をつけて種の拡散もします。弱さゆえに、やみくもな根性論を超えたしたたかでたくましい本質を見失わない生き方を持っているのです。

時として私たちは、「こうあらねばならない」という世間一般の考え方に縛られて生きる本質を見失ってしまうことがあります。確かに、一般論の多くは間違ってはいないでしょう。しかし、それがすべて自分に当てはまるとは限りません。時には「こうあらねばならない」という考えを横に置いて、「自分はどう生きたいのか」を問いながら生きてほしいと思います。